

**第 6 次札幌市環境保全協議会
報告書及び資料**

平成 20 年 6 月発行

目 次

会長の言葉

第6次札幌市環境保全協議会委員名簿

市長への提言	1
環境教育部会	2
提言1 町内会活動との連携を図り、環境教育を促進するための人的ネットワークを構築する	
提言2 家庭で簡便に取り組める、効果的な環境学習プログラムを作成し、その活動の成果を評価できる仕組みをつくるなど、家庭や地域社会に根ざした環境学習を推進する	
提言3 企業や環境活動団体と連携し、家庭や地域社会と連動した啓発活動を展開する	
生活部会	5
提言1 移動手段のワイズユースを進め、交通面での環境負荷を低減する	
提言2 省エネルギー政策の推進により「共生に向けた新しい暮らし」を創造する	
提言3 多様な道路の緑化の実現に向けて街路樹のさらなる向上を目指す	
ごみ問題部会	9
提言1 生ごみ・紙ごみ・プラスチックごみの減量	
提言2 ごみ排出マナーの向上を図る	
提言3 集団資源回収の促進を徹底する	
資料	12
環境教育部会 資料	12
生活部会 資料	17
ごみ問題部会 資料	51

会長の言葉

環境保全協議会の大きな役割は、環境問題について、市民生活で感じた諸課題などを世代間を越えた自由な発想で市民・NPO・事業者がそれぞれの立場を超えて議論を行い、市長に対して率直な提言をすることです。

今や、環境問題は私達の生活に直接関わる問題として広く認知されてきました。委員の関心も年次が増すにつれて多岐になり、課題をまとめるだけでも大変な作業でした。

この提言は、三部会制を取り入れ、約40名の委員が任期の中で、学習会、見学会などを通して学び、集中的に議論を進め、喧々諤々の議論を尽くして作られました。

環境教育部会は、過年次の提言内容をこまかに検討するとともに、地球に優しいまちづくりを進めてきた西区民会議の関係者の方々と情報交流の場を設けるなど、家庭生活や地域社会の視点を重視し、協議を積み重ねて提言をまとめました。

生活部会は、部会の枠に収まらない多様な問題意識を三つのテーマに集約し市民生活の視点を切口に提言をまとめました。

ごみ問題部会は、一般生活から排出されるごみの減量の方策を模索し、他都市の事例見学や分別での有効処理に関する研修などを重ね、意見をまとめました。

この提言に共通することは、市民一人ひとりが環境を大切にすることをもち、市民自ら行動することです。その為に必要な施策をそれぞれの目線でまとめました。この提言はまとめる所までは私達の役割ですが、この提言を活用することによって初めて、提言が生きてきます。

この提言が札幌市の環境行政に寄与することを心から願い、市の施策に少しでも「きっかけ」や「ヒント」となるよう活用ください。

2008年6月

第6次札幌市環境保全協議会

会長 田作淳

第6次札幌市環境保全協議会委員名簿

環境教育部会

氏名	所属団体等
会田 由香子	環境教育リーダー
伊藤 武司	公募市民委員
一口 芳勝	NPO法人 北海道環境カウンセラー協会
喜多山 久美子	こどもエコクラブ
倉持 正幸	公募市民委員
下田 修造	公募市民委員
馬場 美佳	公募市民委員
浜 久美子	NPO法人 En Vision環境保全事務所
水崎 呈	北海道海浜美化を進める会
宮本 奏	EZO ROCK
安田 守	(財)省I社協-センター北海道支部
上村 昌志	(財)省I社協-センター北海道支部
安田 謙	北海道住宅都市開発協会

生活部会

氏名	所属団体等
池田 和雄	公募市民委員
石黒 裕佳子	NPO法人 ひまわりの種の会
奥谷 直子	(社)札幌消費者協会
角田 孝純	(財)北海道造園緑化建設業協会
木立 孝志	北海道百貨店協会
木場 知則	札幌弁護士会
斉藤 俊夫	(社)食品容器環境美化協会
立成 能毅	
下田 敏泰	公募市民委員
新谷 一之	(社)日本ガス協会北海道部会
長尾 達	
中島 勉	(社)北海道建築士事務所協会札幌支部
萩 佑	(特)北海道グラウンドワークトラスト
村上 隆	札幌地区バス協会
矢橋 潤一郎	前次協議会委員
油津 雄夫	NPO法人 水環境北海道

ごみ問題部会

氏名	所属団体等
石井 修	札幌環境維持管理協会
澤田 千治	
及川 武夫	公募市民委員
木村 雅治	循環ネットワーク北海道
高橋 悦男	公募市民委員
高畠 宣雄	公募市民委員
田作 淳	前次協議会委員
出戸 信成	日本チェーンストア協会北海道支部
笹山 健一	
渡部 晃洋	
徳田 眞一	豊平区クリーンさっぽろ衛生推進協議会
中家 隆夫	NPO法人 北のごみ総合研究所
平井 正廣	公募市民委員
森 繁樹	環境問題を考える会

印は任期途中（平成18年6月～平成20年5月）に交代及び退任した委員